

## 社会資本の戦略的な維持管理

### 1. はじめに

徳島市は、徳島県の東部に位置し、吉野川とその支流がつくり育てた三角州に発達した人口約26万人の県都です。

市内を縦横に流れる大小138の河川により、多くの島が形成された水と緑の豊かな「水都」であり、「笑顔みちる水都 とくしま」を将来像として、多くの人々にそこに住みたい、住み続けたいと思ってもらえる、笑顔倍増のまちの実現を目指しております。

本市の社会インフラについては、高度経済成長期以降に整備されたものが多く、今後、一斉に老朽化し、大きな財政負担となることから、戦略的な維持管理に取り組むことにより、市民の安全・安心の確保、維持管理・更新に係るトータルコストの縮減等を図る必要があります。

### 2. 橋りょうの長寿命化対策

徳島市では、1,300を超える道路橋を管理しております。その大半が高度経済成長期に建設され、急激に老朽化が進んでおり、現在の架設後50年以上を経過した橋梁の割合は、約30%ですが、10年後には約48%に達し、20年後には約64%が架設後50年以上の橋梁となることから、近い将来において大量更新時代が到来することが予測されます。

国においては、平成24年の笹子トンネル事故を踏まえ、インフラが的確に維持管理されるよう

に、平成25年を「社会資本メンテナンス元年」と位置づけ、施設の老朽化対策に総合的・重点的に取り組む方針を打ち出しております。



断面修復工事（左官工法）

しかしながら、昨今の厳しい財政事情の中、すべての橋梁を完全な形で維持管理するには、莫大な費用が必要となるため、難しい状況にあります。

このようなことから、徳島市では、全ての管理橋梁を対象とした近接目視点検が終了した今年度、橋梁の維持管理方針となる「徳島市橋りょう長寿命化修繕計画」を見直しております。

対症療法的な事後対応からの転換を図ってきた予防保全型管理はさらにメリハリをつけた管理手法とし、費用の縮減を図りつつ計画的かつ効率的な維持管理を行い、市民生活を支える道路インフラを構成する橋梁の老朽化に柔軟かつ確実に対応してまいります。

### 3. 下水道のストックマネジメント

本市の下水道事業は、戦後間もない昭和23年に開始し、今年で71年目を迎えました。



徳島市長 遠藤 彰良

この間に、管路施設では総延長約400km（平成29年度末現在）、処理場・ポンプ場施設では土木・建築構造物、機械・電気設備あわせて約4,500点という、膨大なストックを保有するまでに至りました。

しかしながら、初期に布設された管路施設や耐用年数の短い機械・電気設備の多くが改築の時期を迎えており、施設の老朽化対策は未普及解消・浸水・地震津波等の各対策と並んで、本市下水道事業における喫緊の課題の一つとなっております。



下水管の老朽化（鉄筋露出）

このような中で、平成27年の下水道法改正では、維持修繕基準の創設や、事業計画への記載事項として点検方法・頻度が追加されるなど、将来にわたり安定した下水道サービスを提供し続けるために、戦略的な維持管理を推進することが求められております。今後、本市では、財政的・人的資源の縮小により、状況はより一層厳しくなるものと予想されており、したがって、持続的な事業運営を行っていくためには、これらの諸課題に対して機能・予算・リスク管理のバランスを図りながら、

下水道事業全体の最適化を図ることが重要であると考えております。



改築更新後の電気設備

本市では、現在の長寿命化計画よりも一層の効果的・効率的に対策を推進するため、平成29年度からストックマネジメント計画の策定に着手しております。昨年の夏に策定した実施方針に基づき施設の調査を実施し、その結果をもとに向こう5箇年程度の修繕・改築計画の策定を行い、平成31年度中には同計画書を国及び徳島県に提出して改築事業にとりかかりたいと考えております。

#### 4. おわりに

徳島市の市内中心には、川に囲まれた「ひょうたん島」と呼ばれる中州があり、この中州を1周するひょうたん島周遊船が運航されております。

いくつもの橋をくぐり、船上から美しく整備された水際の公園やヨットハーバーを眺めれば、水都とくしまを実感することができます。

ぜひ、徳島市にお越しの際には体験してみてください。